

Best Practice



Akiyoshi
Hashimoto

橋本 暁佳
札幌医科大学循環器・腎臓・代謝内分泌内科学講座准教授

肺高血圧症診療の第一歩

一札幌医科大学病院でPH診療をスタートされた経緯を教えてください。

私が肺高血圧症 (pulmonary hypertension : PH) 診療に携わるようになったのは2003年、1人の重症PH患者さんを初診から担当したことがきっかけでした。重症PHの30代女性で、当院のエポプロステノール持続静注療法導入の第1号となった方です。薬剤をどのタイミングで、どの用量まで増やせばいいのかもわからず、試行錯誤しながら約2年かけて40ng/kg/分まで増量したものの、入院中に突然死されるという非常に残念な転帰を辿られました。今思うと肺動脈性肺高血圧症 (pulmonary arterial hypertension : PAH) ではなく慢性血栓塞栓性肺高血圧症 (chronic thromboembolic pulmo-

北海道における 肺高血圧症診療と 新たな治療ゴール



札幌医科大学附属病院